

2024年度（2025年2月期）第1四半期決算概要

単位：億円	2023年度 1Q実績	2024年度1Q	
		実績	前年同期差
営業収益	1,249	1,257	+8
事業利益	225	237	+11
持分法投資損益	3	4	+1
その他損益	▲9	▲11	△2
金融損益	▲13	▲15	△3
税引前当期利益	207	214	+7
法人所得税費用	▲63	▲63	+1
非支配持分損益	3	3	+0
親会社所有者帰属利益	147	155	+8

単位：億円	2023年度末 実績	2024年度1Q末	
		実績	前年度末差
流動資産	4,076	4,017	△59
非流動資産	13,439	13,558	+119
使用権資産	6,071	6,111	+40
有形固定資産	1,367	1,361	△6
その他金融資産	1,438	1,613	+175
その他	4,563	4,473	△90
負債	10,051	10,085	+34
有利子負債	256	235	△21
その他	9,795	9,850	+55
資本	7,463	7,489	+26

今期 トピックス

▶ 既存店日商は33ヵ月連続での前年超えと好調

気温上昇や行楽需要に対応し、定番商品の「ファミチキ」、老舗海苔店や有名カップ麺とのコラボが功を奏したおむすび、「生しっとりパン」を中心としたパン等の中食商品や、プライベートブランド（PB）である「ファミマル」が前年度に引き続き堅調。また、SNSで話題となった「コンビニエンスウェア」の文具やフラッパ・デザートの種類新商品が好調に推移、PB商品比率が高まり、売上を大きく牽引。

▶ デジタルの活用による生産性向上に向けた取り組み

データ集計・資料作成・問合せ等の業務時間50%削減に向け生成AIの活用を加速。また、店舗業務の生産性向上及び業務効率化に向け、ストアスタッフの勤務シフトやワークスケジュールを自動作成する「ファミマ・ワーク・システム」の導入を開始。

▶ 独自性のあるSDGsの取り組み

食支援・廃棄ロス削減に貢献する「ファミマフードドライブ」は約3,500店舗に拡大、累計寄付量200トンを突破。自立電源システム搭載の移動型無人トレーラー店舗を大阪・関西万博の工事現場にオープン、今後は被災地や買物不便地域等での展開を検討予定。

主要な 前期差増減

親会社所有者帰属利益 前年同期差 +8億円

- ▶ 収益力向上（商品力・販促強化による日商向上 等）
- ▶ 広告・メディア事業等、事業会社関連 等
- ▶ 事業の基盤強化に向けた取り組みの加速 等
- ▶ 外部環境変化によるコスト増加 等

+15億円
+4億円
△5億円
△6億円